

政治リスクと為替レート

米国の大統領選挙が大詰めを迎えた時期に、トランプ大統領がコロナウイルスに感染した。どちらも大きな政治リスク要因だ。

だが為替レートへの影響を見ると今のところそれほど大きな影響はないように見える。それは政治リスク要因の為替レートとの関係が希薄になったからではなく、二つの大きな要因が同時期に起こったことで市場が為替との関係を消化しきれないためと考える。

大統領選挙についてはトランプ大統領が郵便投票に疑念を示し負けても選挙結果を尊重しないと発言してから選挙後も含めて不確実性が高まった。それで市場のボラティリティーが高まり、リスクポジション（主にドルショート）を減らす動きと通貨オプションの買いが増えた。

さらに為替で様々なヘッジポジションも生まれた。例えば、株式市場の下落のヘッジのためにオーストラリアドルやメキシコペソのショートポジションを対円で持つことだ。株に限らず他のリスク資産でも相関性の高い為替レートを探してヘッジとして利用する動きだ。

大統領のコロナ感染については為替への影響を探るにはあまりにも早く退院してしまった。本当に回復したのか。薬の副作用の影響はどうなのか。しばらく見ないと判断できない。

一般的には大統領の職務遂行に影響が出るような事態が想定されるケースではドルが売られる。例えば、レーガン大統領が銃撃された暗殺未遂事件ではニュースが伝わるとドルが売られた。米国の大統領や財務長官が職務遂行不能に陥る可能性が出たり、辞任が伝わるとドルが売られる傾向がある。

トランプ大統領が今後コロナウイルスの後遺症や薬の副作用で職務遂行が不可能になった場合はペンス副大統領が職務を引き継ぐ。この場合ドルは売られる可能性がある。

ただトランプが大統領選に出られない場合、ペンス副大統領が必ずしも代わりの候補になるわけではない。共和党で候補者を選出する。こうなると事態は混

沌としてくる。不確実性が一層高まりリスクオフの取引が増えそうだ。そうなる
とドルや円が買われることになる。